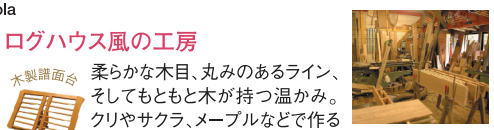
Bエリア

訪問の際は事前に要連絡

13 鈴木 直彦 Suzuki Naohiko 木工

sola

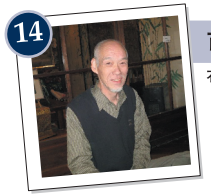
ログハウス風の工房



柔らかな木目、丸みのあるライン、そしてもともと木が持つ温かみ。クリやサクラ、メープルなどで作る椅子は、工房を訪ねれば高さや角度を合わせるところから始めてくれる。ここは美山の中でも雪の深い場所。冬はしんしんと雪が降り積もる中、工房で木を削る。

もともと設計を勉強していたが、「最初から最後までやってみたい」という思いで木工芸を始める。作風は主にシェイカー家具の影響を受けている。

住所：〒601-0702 南丹市美山町田歌　TEL：0771-77-0516 or 080-2414-3662
FAX：0771-77-0516　e-mail：nao-s@cans.zaq.ne.jp　http://www.sola-wood.com



訪問の際は事前に要連絡

14 市川 想人 Ichikawa Soujin 布絵

布絵ギャラリー洛詩舎　Rakushisya

生地の深みと生活のある構図

「（布絵は油絵よりも）遠近感とあたたかみが出る」と語り、色彩と柄に気を付けながら絹布を切って貼り重ねる。囲炉裏のあるギャラリーで、生地の持ち味がさらに引き立つ。体験は2時間程度でできる色紙（1,200円、入館料込み）から長期のものまである。

京着物の販売をしていたが、木目込人形を見て着物地を絵に用いることを思いつく。ほぼ独学の手法による作品は、ここ美山のかやぶきの風景が中心。

住所：〒601-0715 南丹市美山町下曽根5番地　TEL：0771-77-9051
入館料：300円　休館日：火曜日

訪問の際は事前に要連絡

15 黒田 邦臣 Kuroda Kuniomi 竹工

京都美山の竹工房「美山竹」　Miyamadake

窯の中で変化する竹をよむ

▲花器「鶴首」

竹を炭焼き窯へ入れたら竹炭になるのは当たり前。では炭になる前に火を止めたらどうなるか。そのとき、いぶされた竹があめ色の風合いを醸し出す。しかし加減が難しい。やりすぎると割れ、足りないと味がない。納得できた竹の表面を磨き、さらに漆をほどこす。

▲卵殻を用いた作品（左）

美山生まれで、もともとの竹好き。Uターンで戻ったのを期に作品を思いつく。「竹一重切」などの花器が中心だが、今後幅を広げていく。「黒兵衛」が自身の愛称。

住所：〒601-0715 南丹市美山町下西杉波7番地　TEL：0771-77-0317 or 090-8751-9925
e-mail：kuniomi-kuroda@jttk.zap.ne.jp　http://www.jttk.zaq.ne.jp/baaxp700/

＝工房見学可能　＝ギャラリー・カフェ等あり　＝体験可能